

2006年1月31日発行

今回の紙面から（ページと内容）

- 1 会長挨拶
- 2 第24回大会のご案内
研究発表応募規定の改定について
- 3 ワークショップの企画募集
- 4 理事会・評議員会より
- 6 編集委員会より
- 7 大会運営委員会より
学会賞選考結果
- 8 「日本英語学会新人賞」論文募集の
お知らせ
学生会員の登録継続について

会長挨拶

会長 千葉 修司

新しい年を迎え、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年11月の九州大学における第23回大会は、数々の充実した研究発表や多方面にわたる魅力的な内容のシンポジウムに大勢の会員の皆様にご参加くださり、今回の大会も成功裏に幕を閉じることができました。今回も、多くの方々のご協力をいただきましたが、特に、この大会開催のために会場をご提供くださり、大会の準備・実施にわたり、いろいろきめ細かなご配慮をくださいました九州大学の関係者のみなさま、および、お役目柄とはいえ、長期間にわたり、大会開催の準備・運営全般を上手に取り仕切ってくださいました大会運営委員のみなさまに、心より御礼申し上げます。

今回の大会では、大変喜ばしい出来事として、開会式・総会において、二つの学会賞授賞式を執り行うことができました。その一つとして、学会に対す

るこれまでの多大なる貢献、および言語学の分野における優れた業績に対し、特別賞が原口庄輔氏に授与されました。ついで、新人賞の部門において、佳作の賞に選ばれたお二人、長野明子さんと島 越郎さんに賞状と記念品が授与されました。特別賞の原口氏は、故中尾俊夫氏、故神尾昭雄氏に次いで3人目の受賞者ですが、一方、新人賞の方は、賞が設立されて3年目にして初めての佳作受賞者の誕生となりました。お二人の研究論文は機関誌 *English Linguistics* の第23巻1号に掲載されることになっています。今年も、大勢の若手研究者の会員の皆様が新人賞にふるって応募くださり、見事、新人賞を射止めてくださるよう期待いたします。

大会の総会でもご報告いたしました。このたび、理事会において、維持会員の定年引き下げに関する会則改正案が正式に承認され、その結果、会長、理事、監事、評議員の選出年齢、依嘱年齢が従来のものより若干引き下げられることとなりました（改正される会則等の具体的条項の中身および施行時期については、「理事会・評議員会より」の該当箇所をご覧ください）。

この改正案の主な狙いは、会長・理事をはじめとする維持会員の定年を引き下げて、学会役員「若返り」を図ろうとするところにあります。理事は、選挙母体である評議員会のメンバーの中から選挙により選ばれますが、その主な仕事内容は、年に二回開かれる定例理事会（および、必要に応じて開かれる臨時理事会）に出席し、学会全体の運営・活動に関わる重要議題・案件の審議・協議に参画すると共

に、会長ならびに事務局を支え、学会の望ましいあり方を模索する上で必要となる具体的提言を行います。さらに、特別賞ならびに新人賞の選考委員会に加わり、それぞれ、候補者の人選・審査および応募論文の審査に当たります。また、一昨年、突如として起こりました、いわゆる、日本学会事務センター破産事件のような突発的事件に対する対応策を協議・実行する上でも、理事会の役割が重要になります。あるいは、今後、何か新しい学会活動についての提案がなされ、それを実行に移すための委員会や活動グループが必要になった場合、たとえば、理事の一人、二人が中心となり、評議員その他の学会メンバーに呼びかけて適当な規模の委員会または活動グループを設置するような可能性も考えられますが、そのような場合にも、それぞれの理事がリーダーシップを発揮することが求められることとなります。

以上の説明でお分かりのように、今後、理事会メンバーには、今まで以上の行動力が求められるようになります。それと同時に、委員会や活動グループの重要なメンバーの一人として、委員会活動などにも積極的に関わることが期待されるようにもなりますので、それに十分対応できるよう態勢を整えておきたいというのが、今回採択された定年引き下げ案の主な狙いです。（おおむね以上のような説明を、昨年10月に行われた理事選挙の際に、選挙人の評議員の方々にもいたしましたので、今回の理事選挙の結果はそれを反映した形になっているのではないかと思います。理事選挙の結果報告については、「理事会・評議員会より」の該当箇所をご覧ください。）

維持会員の定年引き下げに関する今回の会則改正に対する会員の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

新しい事務局を開設して以来、今年で3回目の春を迎えることとなりますが、これまで、顧問の先生

方はもちろん、大勢の会員の皆様からいただいた温かいご支援が、事務局の仕事に携わる私たちにとって大きな励みになっているのを実感いたします。今年も、会員の皆様の学会活動に対する積極的な取り組みと、事務局に対する変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。最後に、今年も、皆様が健康に恵まれ、ご研究の成果がますます上がりますようお祈りいたします。

第24回大会のご案内

第24回大会は次の通り開催される予定です。

日時： 2006年11月4日（土）・5日（日）
場所： 東京大学（本郷キャンパス）
（〒113-8654 文京区本郷7-3-1）

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募書類は、封筒に「研究発表応募論文在中」と朱書の上、**4月1日（土）（必着）**までに日本英語学会事務局（住所は奥付参照）へ郵送して下さい。

なお、このたび応募規定が一部改定されました（以下の記事参照）ので、応募される方は新規規定をご確認のうえ、遵守されるようお願いいたします。

研究発表応募規定の改定について

昨年12月開催の大会運営委員会において研究発表応募規定の一部が改定されました。下記をご参照下さい。新規定の全文は学会ホームページ（URLは奥付参照）に掲載されていますので、あわせてご覧下さい。

研究発表応募規定新旧対照表

（主要改定項目・部分のみ）

	旧	新
第1項 (発表 応募者 の資 格)	1. 発表者は日本英語学会の会員に限る。応募時に非会員の場合は、採用が決定した時点で会員になる必要がある。なお、複数名の共同研究の場合は、発表者以外の共同研究者に非会員が含まれていてもよい。	1. 発表者は日本英語学会の会員に限る。非会員の場合は、 <u>遅くとも応募時に会員になる必要がある。</u> なお、複数名の共同研究の場合は、発表者以外の共同研究者に非会員が含まれていてもよい。
第2項 (重複 応募の 禁止)	2. 内容は当該大会時点で未発表のものに限る。また、 <u>他学会に応募中の発表内容を本学会に二重に申し込むことはできない。</u>	2. 内容は当該大会時点で未発表のものに限る。また、 <u>他学会の発表に応募中のもの、他学会で発表が予定されているもの、<i>English Linguistics</i>あるいは他学会誌に応募中のもの、掲載が予定されているものを本研究発表に重複して申し込むことはできない。</u>
第7項 (審査 希望分 野)	1. 統語論 2. 音声学・音韻論 3. 形態論・語彙論 4. 意味論 5. 語用論・談話分析 6. 歴史言語学 7. コーパス言語学・語法研究 8. <u>社会言語学</u> 9. <u>心理言語学</u> 10. <u>神経言語学</u> 11. <u>その他。</u>	1. 統語論 2. 音声学・音韻論 3. 形態論・語彙論 4. 意味論 5. 語用論・談話分析 6. 歴史言語学 7. コーパス言語学・語法研究 8. <u>認知言語学</u> 9. <u>社会言語学</u> 10. <u>心理言語学</u> 11. <u>神経言語学</u> 12. <u>その他</u>

ワークショップの企画募集

シンポジウムが大会運営委員会の企画であるのに対して、ワークショップは、会員の自主的な企画・運営によって、特定のテーマについて発表と自由な

討論をしていただく場です。第23回大会では皆様のご協力により、6つのワークショップが開催されました。今年の第24回大会でも11月4日(土)の午前9時30分から12時までをワークショップにあてる予定です。

企画・運営を希望される方は、A4用紙で企画書(ワークショップのタイトル、企画者の氏名・所属、1000~2000字(英文の場合1行65字×1ページ25

行で2~4枚、または600~1200語)程度の趣旨)を5部作成(コピー可)し、連絡先(連絡先住所、電話番号、e-mailアドレスなど)を明記の上、**3月31日(金)(必着)**までに事務局宛(奥付参照)にお送り下さい。封筒には「従来型ワークショップ企画書」と朱書して下さい。なお、非会員の企画者は遅くとも応募時に入会する必要があります。入会方法は学会ホームページ(奥付参照)をご覧ください。

応募された企画は大会運営委員会が検討し、採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。ワークショップで発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

Student Workshop について

ワークショップをさらに活発にするために、従来型のワークショップと並行して、第20回大会からStudent Workshopが開催されるようになりました。Student Workshopは、学生会員(大学院生および大学院を終えた研究員・非常勤講師)が中心となって企画・運営するものです。一つの大学だけではなく、複数の大学にまたがる研究者の連携も可能です。各会場の参加人数を50名程度に抑え、発表者と聴衆がより自由に話し合えるようにします。発表者は院生ないし研究員・非常勤講師ですが、司会者には教員を加えることもできます。Student Workshopが、異なる大学の院生間の学問的な交流を促す機会になれば、と考えています。英語学に関わるテーマであれば、理論や分野は問いません。

応募希望の方は、A4用紙で企画書(ワークショップのタイトル、司会者と発表者の氏名・所属、1000

～2000字（英文の場合1行65字×1ページ25行で2～4

枚、または600～1200語）程度の趣旨）を5部作成

（コピー可）し、連絡先（連絡先住所、電話番号、e-mailアドレスなど）を明記の上、3月31日（金）（必着）までに事務局宛（奥付参照）にお送り下さい。封筒には「Student Workshop企画書」と朱書して下さい。応募時に学生会員であることが条件です。入会方法は学会ホームページ（奥付参照）をご覧ください。

採用された企画には、学会から1件につき3万円の助成金が支給されます。採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。Student Workshopでの発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくことになります。多数の応募をお待ちしています。

なお、従来型WorkshopとStudent Workshopのいずれにおいても、企画者以外の発表者に非会員が含まれていても構いません。また、発表者と司会者の全員が決まっていなくても応募できます。発表者がすでに決定もしくは予定されていて、採用後、新たに発表者を募る予定のない場合は、応募の際にその旨明記するようお願いいたします。

理事会・評議員会より

○ 会計

2005年度収支中間報告書について事務局財務担当書記より説明があり、理事会および評議員会において承認されました。

○ 役員の異動

・理事（退任）

昨年11月末日をもって以下の理事6氏が任期満了となりました。

今井邦彦氏（東京都立大学名誉教授）、影山太郎氏（関西学院大学）、豊田昌倫氏（関西外国語大学）、中島平三氏（学習院大学）、

中村捷氏（東北大学）、馬場彰氏（東京外国語大学）

また、長谷川欣佑氏（東京大学名誉教授）が理事1期目で定年となられたため退任されました。なお、長谷川氏は会長より顧問に推薦され、承認されました。顧問就任は、2006年4月1日からです。

退任された7人の理事の方々には、これまで学会のためご尽力いただき、誠にありがとうございました。

・理事（新任）

上記の理事6氏の任期満了に伴う理事選挙が郵送により行われ、選挙管理委員の島村礼子氏（委員長）と牛江一裕氏による開票（2005年10月23日（日）津田塾大学において実施）の結果、以下の方々を選出されました。

天野政千代氏（名古屋大学）、稲田俊明氏（九州大学）、今西典子氏（東京大学）、大庭幸男氏（大阪大学）、高見健一氏（学習院大学）、原口庄輔氏（明海大学）

新理事の任期は、2005年12月1日より2009年11月30日までの2期4年間です。なお、大津由紀雄氏（慶応義塾大学）、河上誓作氏（大阪大学）、千葉修司氏（津田塾大学）、山梨正明氏（京都大学）は理事2期目となります。

また、長谷川欣佑氏が理事1期目で定年となられたため、2期目（任期2年）は、前回理事選挙の次点者福地肇氏（東北大学）が選出されました。

・監事（退任）

監事の大庭幸男氏（大阪大学）と高見健一氏（学習院大学）が理事に選出されたのに伴い、監事を退任されました。大庭氏と高見氏のお二人には、これまで監事をお務めいただき、お礼を申し上げます。

・監事（新任）

上記お二人の監事退任に伴い、新たに八木孝夫氏（東京学芸大学）と瀬田幸人氏（岡山大学）のお二人が会長により監事に推薦され、承認されました。八木氏と瀬田氏の委嘱期間は、それぞれ、2005年12月1日より2007年3月31日まで、および、2005年12月1日より2008年3月31日までとなります。

・評議員（交替）

現評議員の矢野安剛氏（早稲田大学）より、辞任の申し出がありましたので、2006年4月1日より、後任として吉田恵以子氏（早稲田大学）にお願いすることになりました。

・編集委員長（退任）

昨年11月末日をもって、竝木崇康氏（茨城大学）が任期満了で退任されました。副委員長としての2年間に加え、編集委員長として2年間という長期にわたり当学会にご尽力いただき、ありがとうございました。

・編集委員長（新任）

昨年12月1日付で、米山三明氏（成蹊大学）が編集委員長に選出されました。任期は2007年11月30日までの2年間です。

・大会運営委員長（退任）

昨年12月をもって、岡田伸夫氏（大阪大学）が大会運営委員長を任期満了で退任されました。1年間委員長をお務めいただき、ありがとうございました。

・大会運営委員長（新任）

昨年12月15日付で、大沢ふよう氏（東海大学）が大会運営委員長に選出されました。任期は本年12月14日までの1年間です。

○ 維持会員の定年引き下げ

2005年11月11日の理事会決定に基づき、日本

英語学会会則、会員規定および理事選考規則が次のように改正されることになりました。改正される主な点は、維持会員の定年、会長および理事の選出年齢、監事および評議員の委嘱年齢に関する条項です。

改正される日本英語学会会則・会員規定・理事選考規則の新旧対照表

	旧	新
会則第6条3	維持会員は、 <u>69</u> 歳を越えた場合、通常会員に戻る。	維持会員は、 <u>65</u> 歳を越えた場合、通常会員に戻る。 <u>その時期は、直近の任期終了時とする。</u>
会則第10条1	会長は、理事会の選挙によって決める。会長の任期は3年とし、引続き再任はできない。なお、会長は、会員の中から選出されるものとし、 <u>69</u> 歳を越えて会長に選出されることはできない。	会長は、理事会の選挙によって決める。会長の任期は3年とし、引続き再任はできない。なお、会長は、会員の中から選出されるものとし、 <u>62</u> 歳を越えて会長に選出されることはできない。
会則第12条2	理事の任期は2期（1期＝2年）とし、引続き再任はできない。	理事の任期は2期（1期＝2年）とし、引続き再任はできない。 <u>また、63歳を越えて選出されることはできない。任期1期目で65歳を越えた場合は、会則第6</u>

		<u>条 3 に準じて、その役を退く。</u>
会 則 第 13 条 2	監事の任期は 3 年とし、引続き再任はできない。	監事の任期は 3 年とし、引続き再任はできない。 <u>また、62 歳を越えて委嘱されることはない。</u>
会 則 第 14 条 2	評議員の任期は 3 年とし、引続き再任を妨げない。但し、 <u>69 歳を越えて委嘱されることはない。</u>	評議員の任期は 3 年とし、引続き再任を妨げない。但し、 <u>62 歳を越えて委嘱されることはない。</u>
会 員 規 定 2 ハ)	維持会員は、 <u>69 歳</u> を越えた場合、通常会員に戻る。	維持会員は、 <u>65 歳</u> を越えた場合、通常会員に戻る。
理 事 選 考 規 則 第 5 条	理事に欠員が生じた場合、補欠者が前任者の残余期間を務める。 <u>なお理事が任期 1 期目途中で 69 歳を越える場合、その任期終了時まで務め、2 期目は前任者の当該理事選挙における補欠者が務める。任期 2 期目途中で 69 歳を越える場合も、その任期終了時まで務める。</u>	理事に欠員が生じた場合、補欠者が前任者の残余期間を務める。 <u>前任者の 2 期目を補充する場合に限り、その者は次回選挙における被選挙権を有する。なお任期の 1 期目で定年を迎えた場合は、会則第 6 条 3 に準じて、その役を退く。その後任は選挙により新たに選出する。</u>

(この改正は 2006 年 4 月 1 日から実施する。)

施行時期

この改正を受けて、今後、会長選挙、評議員・監事委嘱、および理事選挙は、以下のように実施されることとなります。

1. 会長選挙

現会長の任期が 2007 年 3 月まで。2006 年 12 月選挙から施行 (この時点で 62 歳以下の者のみ被選挙権を有す)。任期は 2007 年 4 月～2010 年 3 月まで。

2. 評議員委嘱

現在の委嘱期間が 2007 年 3 月まで。2007 年 4 月発令から施行 (この時点で 62 歳以下の者のみ委嘱の対象となる)。任期は 2007 年 4 月～2010 年 3 月まで。

3. 監事委嘱

現監事・八木氏の委嘱期間が 2007 年 3 月まで、瀬田氏の委嘱期間は 2008 年 3 月まで。八木氏後任の 2007 年 4 月発令から施行 (この時点で 62 歳以下の者のみ委嘱の対象となる)。任期は 2007 年 4 月～2010 年 3 月まで。

4. 理事選挙

現在 2 期目理事の任期が 2007 年 11 月末まで。2007 年 10 月選挙から施行 (この時点で 63 歳以下の者のみ被選挙権を有す)。1 期目の終わりで 65 歳となる者の任期は 2007 年 12 月～2009 年 11 月、その他の者の任期は 2007 年 12 月～2011 年 11 月。

1 期目で定年を迎えた者の補充は、次回選挙で行う。

編集委員会より

◇編集委員会の構成

昨年12月より、編集委員会の構成は次の通りとなりました。

(委員長) 米山三明氏

(副委員長) 影山太郎氏

(委員) 阿部潤氏、大庭幸男氏、加藤泰彦氏、
岸本秀樹氏、窪菌晴夫氏、高野祐二氏、
堀江薫氏、丸田忠雄氏、遊佐典昭氏、
吉田恵以子氏 (以上留任)
今西典子氏、大門正幸氏、高見健一氏、
外池俊幸氏 (以上新任)

なお、『え〜ごがく』前号で、編集委員の交代に関するお知らせが漏れていましたこと、お詫び申し上げます。

昨年9月30日をもって、以下の5名の委員が任期満了で退任されました。2期4年という長期にわたり編集委員をお務めいただき、本当にありがとうございました。

岡崎正男氏、加藤鉦三氏、竝木崇康氏、松本曜氏、
鷲尾龍一氏

◇ *English Linguistics* 第22巻2号 (2005年秋号) の刊行

EL22. 2 が刊行されました。一般論文4編、その他(概要)1編、N&D1編、書評論文4編が掲載されています。また、第22巻の掲載論文を収めたCD-ROMが添付されています。会員のみなさまには、昨年12月上旬に送付されました。

◇ *English Linguistics* 第23巻1号 (2006年春号) の応募論文の査読結果について

EL23. 1 (春号) に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。

	一般論文	N & D	書評論文
応募数	10	5	9

採用	2	0	7
不採用	8	5	1
取り下げ	0	0	1

◇ *English Linguistics* 第23巻2号 (2006年秋号) への投稿について

2006年11月発行予定の *English Linguistics* 第23巻2号への投稿論文を募集いたします。奮ってご応募下さい。締切は2006年4月1日(土) (必着)です。ご投稿の際には英文を吟味し、2004年2月発行の会員名簿に記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、規定を遵守してご投稿下さい。特に、論文の長さ(1頁25行、70ストローク以内で、一般論文及び書評論文40枚、N&D12枚以内)については、規程違反が甚だしい場合、内容の如何に関わらず不採用となりますので、十分ご注意下さい。

大会運営委員会より

□ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次の通りとなりました。

(委員長) 大沢ふよう氏

(副委員長) 時崎久夫氏

(委員) 岡田伸夫氏、寺田寛氏、和田尚明氏、越智正男氏、杉崎鉦司氏、吉村あき子氏 (以上留任)、井上逸兵氏、小野尚之氏、谷口一美氏、田端敏幸氏 (以上新任)

□ 第24回大会のシンポジウムの企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号の『え〜ごがく』(No. 45)でお知らせいたします。

□ *JELS* 23について

JELS 23は、現在、第23回大会運営委員長の

岡田伸夫氏に編集をしていただいています。第23回大会で購入の申し込みをしていただいた方には、3月末にお届けする予定です。

「日本英語学会新人賞」論文募集

のお知らせ

□ 第23回大会の報告

第23回大会は、2005年11月12日(土)・13日(日)の両日、九州大学において開催されました。本大会では、7つのシンポジウム、27の研究発表、6つのワークショップが行われました。大会2日間で491名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。JELS 23については218部の購申し込みがありました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では21社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方や大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

学会賞選考結果

○ 新人賞選考委員会より

2005年度日本英語学会新人賞には、4編の応募がありました。そのうち3編が1次選考を通過しました。受賞作に該当するものはありませんでしたが、島越郎氏(山口大学)と長野明子氏(津田塾大学)の二人が佳作に選ばれ、第23回大会総会において、賞状と副賞が贈呈されました。

○ 特別賞選考委員会より

筑波大学名誉教授・明海大学教授、原口庄輔氏に日本英語学会特別賞が授与されました。専門の音韻論にとどまらず、幅広い分野に及ぶ研究実績があること、国際的研究誌での査読、編集委員を長年務め、国際会議の日本への誘致等の国際的貢献があること、さらに、現在活躍中の多くの研究者を育成してきたことが評価されました。氏には大会総会にて、賞状と副賞が贈呈されました。

第4回(2006年度)の「新人賞」論文を以下の要領で募集しますので、奮ってご応募下さい。

応募資格：締切日の時点で37歳以下、または大学院修士課程修了10年以内の日本英語学会会員。

内容：主に英語の共時的・通時の研究、言語の一般理論に関する研究、または英語と他言語(特に日本語)の比較研究などを扱ったもの。

対象：独創性、発展性に富む未刊行論文。受賞の対象は原則として年度1篇とするが、佳作も表彰の対象とする。受賞論文(佳作論文も含む)は、学会誌 *English Linguistics* に掲載される。

表彰：受賞者に対しては、賞状とともに記念品と副賞(10万円)が総会で授与される。また、佳作に対しては、賞状とともに記念品が贈呈される。

枚数・書式：*English Linguistics* の一般論文投稿規程に従う。

応募方法：原稿5部(コピー可)を略歴(生年月日を必ず明記)および業績一覧表1部とともに、日本英語学会事務局に送付する(奥付参照)。封筒の表に「新人賞投稿論文在中」と朱書する。原稿は返却しない。

締め切り：2006年5月31日(水)必着

結果通知：選考結果は9月中旬までに応募者に通知する。

※「新人賞」の応募に関する細目は、学会ホームページ(奥付参照)でご覧下さい。応募に関するお問い合わせは、日本英語学会事務局(elsj@groups.co.jp)までお願いいたします。

を2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により自動的に退会扱いとなりますので、ご注意ください。

事務局より

○ 飯田満良氏、原口庄輔氏、大沢ふよう氏よりご寄付をいただきました。誠にありがとうございます。

○ 学生会員の登録継続について

2005年度に引き続き2006年度も学生会員としての登録を希望される方は、以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了直後に2006年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきますので、申告期限内に申告下さい。本年度は申告方法の変更周知のため年間を通して受け付けておりましたが、事務手続きが煩雑になるのを避けるため申告期限内にお手続き下さいますよう皆様のご協力をお願いいたします。

◇申告資格：「学生」の意味を広義に解釈し、研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者および外国の大学の日本校の学生もこれに含まれるものとします。

◇申告期間：4月1日より4月25日（必着）

◇申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を明記した用紙に、4月以降（も）学生であることを証明するに足る下の(1)～(4)のいずれかの書類を添付して、事務局宛（奥付参照）に「学生会員登録継続希望」と必ず朱書の上郵送して下さい。

- (1) 在籍する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知のコピー
- (4) 指導教員（所属明記）の署名（捺印）
[必要に応じて説明の言葉を加える。]

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教員（あるいはそれに類する立場の教員）より必要に応じて説明の言葉を書いてもらい、それに署名（捺印）していただいたものを提出して下さい。

いずれの場合にも、必ず封書をお願いします。なお、申告された後、事情の変更が生じた場合には、事務局にお申し出下さい。何か不明な点がございました場合も事務局までご連絡下さい。

○ 会費の納入のお願い

今年度の会費をまだ納入しておられない方は、学会支援機構から送られました振込用紙で、至急納入して下さいますようお願いいたします。会費

○ 入退会希望、住所等の変更について

これらについては、学会支援機構に直接電話/Faxあるいは文書で知らせるか、または、学会ホームページからお願いします。

編集後記

一部の景気は上向きだそうですが、学問はやりにくい時代になりました。国立大学の独立行政法人化は、大会会場としてお借りする場合少なくない会場費が必要になるという意外な形で学会運営に影響を及ぼしています。加えて、日本学術振興会の研究助成課が研究評価課と名称（と考え方）を変え、*English Linguistics* 発行に不可欠な出版助成金も来年度から基準が一段と厳しくなりそうです。

経費節約のため、ますます努力が必要です。ひとつには『え〜ごがく』もダウンロード可能なPDFファイルによる発行を考える時期が来ているようです。なにぶん過渡期はさまざまなことを配慮する必要があり、また手間もかかります。

まもなく千葉体制としては最後の年となる3年目に入りますが、会長選挙、会員名簿作成など現事務局には未知の仕事が控えております。特に後者に関しては個人情報保護法があり、従来以上に配慮が必要になると思われます。皆様のご協力が必要不可欠ですので時期が来ましたらどうぞよろしくお願いいたします。

ここまで2年間どうにかやってこられたのは、役員と会員の皆様方の温かいご支援とご協力の賜物と事務局一同心より感謝申し上げます。来年度も、これまでと同様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(鈴木)

2006年1月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 千葉 修司

発行所 日本英語学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/>

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南 2-44-5

桐原書店内

電話 (03) 3314-8181
